

台風16号の接近に伴う被害防止対策について

気象災害対策H26-3
平成26年 9月22日
農林総合研究センター

I 被害防止対策 [詳しい台風情報、解説は最終ページ](#)

台風第16号は、22日12時には東シナ海にあって、1時間におよそ20キロの速さで北に進んでいる。

今後、九州・中国地方に接近・上陸する恐れがあり、石川県へは9月25～26日に最接近する見込みである。

農林総合事務所においては、気象情報に十分注意し、台風の進路に応じた対策を的確に実施できるよう指導の徹底を図ってください。

〈要旨〉

- (1) 野菜、花き等では、大雨に備えて圃場の排水対策に努める。露地のなすでは早めの収穫、ネギでは倒伏防止策を実施する。園芸施設では、施設内に風が吹き込まないように、ハウスバンド等を点検する。
- (2) 収穫中のなし、りんご等では、熟度を確認し、出荷基準を満たしているものは早急に収穫、出荷する。大雨を伴う場合は排水溝を設置するなど園内の排水対策を行う。

〈詳細〉

II 農作物の被害防止対策

1 水稻

晩植栽培や直播栽培で収穫期となっている圃場は、できるだけ刈り取り作業を進める。また、倒伏した圃場で穂発芽等による品質低下を防ぐため、排水に努める。

2 大豆

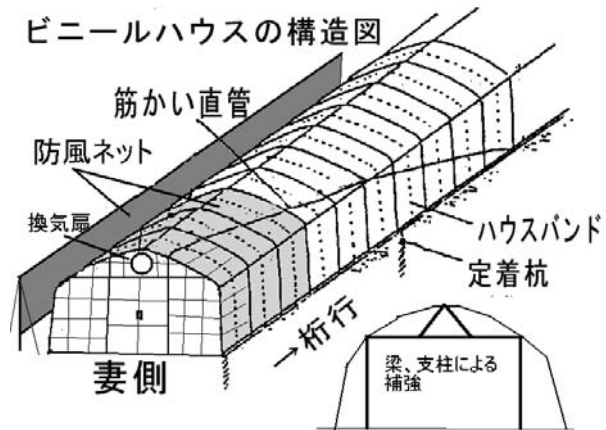
- ① 事前に排水溝を点検・整備しておく。大雨を伴う場合は、台風通過後、速やかな排水に努める。
- ② 収穫にあたり、圃場によって着色粒や腐敗粒などの品質低下が見られる場合は、分別して収穫・調製を行なう。

3 野菜・花き

(1) 台風通過前の対策

園芸施設（トマト、きゅうり、メロン、軟弱野菜、ストック、はぼたん等）

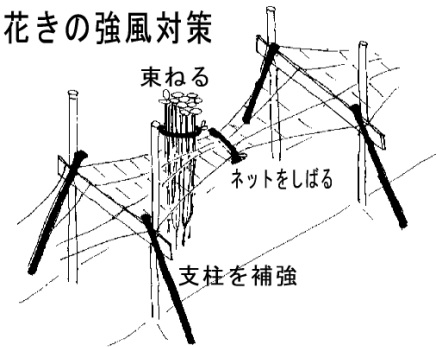
- ① ハウス周囲の排水溝を整備し、施設内への浸水を防ぐ。
- ② 施設内に雨風が吹き込まないように、サイドのフィルムを張り、破損カ所は速やかに補修したり、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなど点検・整備を早急に実施する。
- ③ 暴風時のフィルムやパイプの浮き上がりを防ぐため、ハウス本体の直管と別に桁行直管にハウスバンドを張り、フィルムを固定する。



露地立体栽培（なす、まるいも、ふじまめ、きく等）

- ④ 圃場の排水溝を点検し、大雨時の冠水に備える。
- ⑤ なすなどの果菜類では、収穫可能な大きさのものは早急に収穫する。
- ⑥ 筋かいや直管で棚を相互に連結し、また周囲杭等と棚を固定し、棚全体を補強する。
- ⑦ きくなど立体栽培の花きは、鋼管支柱を3～5m毎に打ち込み、ネットを補強する。さらに、うねの中央に数m置きに支柱を立て、支柱を中心にネットを絞り込み、茎葉を固定する。

花きの強風対策



露地地這栽培（ねぎ、だいこん、にんじん、さつまいも、ブロッコリーなど）

- ⑧ 圃場の排水溝を点検し、大雨時の冠水に備える。
- ⑨ だいこん、ブロッコリー等で幼苗期のものは、風雨での損傷を防止するために、寒冷紗などのべたがけを実施する。
- ⑩ ねぎはパイプ支柱を1.8m間隔に立て、2本のハウスバンドで挟み込むように連結結束し、横ゆれを防止し、葉の損傷や倒伏を抑制する。

(2) 台風通過後の対策

- ① 豪雨により圃場が冠水した場合は、3時間以内ではほとんど悪影響はないが、3時間を超えると高温によるむれや、根腐れによる被害が発生しやすくなるため、直ちに表面排水に努める。
- ② 砂丘畑等では強風や飛砂で茎葉が傷んだ場合は、通過後直ちに速効性肥料で追肥する。また、茎葉が風雨でもまれた場合は、病害が発生しやすいので、殺菌剤による予防を行う。
- ③ 花きでは風で茎が斜めになった場合は、台風通過後2～3時間以内にネットを起こし元に戻す。特に露地ぎくでは起こすのが遅れると茎の曲がりか定

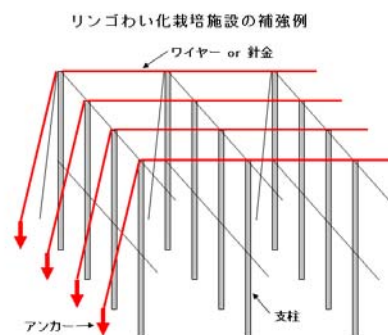
着して、元に戻らなくなるので注意する。

- ④ 花木・枝物の枝折れに対しては、枝の裂け等損傷の無い部分まで切りもどす。

4 果樹

(1) 台風通過前の対策

- ① 収穫中のなし、りんご等では、熟度を確認し、出荷基準を満たしているものは早急に収穫、出荷する。(ただし農薬使用基準を遵守すること)
- ② 大雨を伴う場合は、排水溝を設置するなど園内の排水対策を行う。
- ③ 高接ぎ更新などの接ぎ木部分は風に弱いため、支柱を添えて必ず補強する。
- ④ 防風施設は支柱を点検し、ネットの破れ等は補修し架線にしっかり固定する。
- ⑤ りんごのわい化栽培では、支柱の上部をワイヤ等で連結し補強する。
- ⑥ 収穫が終了したぶどう園では、速やかにビニールをはずす。
- ⑦ りんごの普通栽培やかきでは、枝の揺れによる落果を防止するため、枝の結束や支柱立てを行う。特に、結実の多い枝は、抵抗が大きく揺れやすいので注意する。
- ⑧ キウイフルーツ、いちじく等の新梢は折れやすいので、新梢を棚面や支柱等に固定する。特に、いちじくは、葉擦れが原因でサビ果が発生するので新梢が揺れないようしっかりと固定する。
- ⑨ 事後対策のための資材等を予め準備しておく(薬剤、補修資材等)



(2) 台風通過後の対策

- ① 落果した果実は、早急に集め用途に応じて処分する。
- ② 倒伏樹は速やかに起こし、支柱で固定する。太根の切断が著しい場合は、その程度に応じて地上部を切りつめる。
- ③ 枝が裂けた場合は、傷害部を削り取り、塗布剤で処理する。
- ④ 強風で葉や新梢が傷ついた場合は、速やかに灌水を行うとともに、病害の発生による2次被害を防ぐため、殺菌剤を散布する。なお、落葉が激しい場合は摘果の見直しを実施する。
- ⑤ ビニールハウス、果樹棚、支柱が損傷した場合は、早急に補修する。
- ⑥ 長時間、雨水が滞水しないよう排水対策を講じる。

5 畜産

(1) 台風通過前の対策

- ① 畜舎内に風が吹き込まないように、窓、戸等の破損箇所は速やかに補修する。
- ② 暴風時は畜舎を密閉し、換気扇を稼働させて換気を行う。
- ③ 畜舎への雨水の進入を防ぎ、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。
- ④ 停電によって搾乳ラインやバルククーラーが止まることが予想されるので、緊急時の発電機の確保を検討しておく。

(2) 台風通過後の対策

- ① 畜舎の再点検を行い被害箇所の修理を行う。

- ② 畜舎への浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に、搾乳機器は故障箇所点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

6 飼料作物

(1) 台風通過前の対策

- ① ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールは、網をかけるなど強風による破損を防止する。

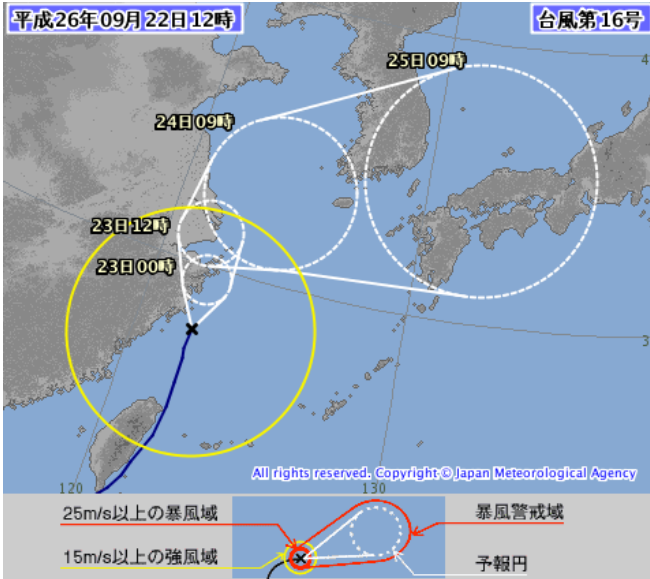
(2) 台風通過後の対策

- ① 刈取り適期の牧草やスーダングラスは、天候をみて早急に刈取りする（倒伏したものは速やかに収穫し、品質の低下を防ぐ）。
- ② 飼料用とうもろこしは、倒伏の傾きが45度以下なら生育に支障がないので、収穫せず登熟を進める。地際まで倒伏した場合は、熟度が進んだものほど回復が小さいので、折損により回復が見込めないものを優先し、熟度に応じ収穫時期を決定する。
- ③ ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールに破損箇所があれば、再度ラッピングするなり、テープを貼るなどサイロの気密性の確保に努める。
- ④ 飼料用とうもろこしは、倒伏の傾きが45度以下なら生育に支障がないので生育期間を確保する。地際まで倒伏した場合は、熟度が進んだものほど回復が小さいので、折損により回復が見込めないものを優先して、熟度に応じて収穫時期を決定する。

Ⅲ 気象の概況

台風の進路予想 (台風第16号の状況)

2014年09月22日12時00分現在



中心位置	北緯 27 度 50 分 (27.8 度)
	東経 122 度 05 分 (122.1 度)
進行方向、速さ	北 20km/h (10kt)
中心気圧	990hPa
中心付近の最大風速	23m/s (45kt)
最大瞬間風速	35m/s (65kt)

○黄円の範囲は風速 15m/s 以上の強風域

○赤円の範囲は風速 25m/s 以上の暴風域

●白円で内側は予報円(台風の中心が到達すると予想される範囲) 外側は暴風警戒域(台風の中心が予報円内に進んだ場合に暴風域に入る可能性のある範囲)

*なお、台風の暴風域が無くなる場合、暴風警戒域は無くなり、予報円のみとなる。

本県では、台風が日本海を北上した場合、南よりの強風が吹き込んでフェーン現象になることが多く、太平洋から日本列島を横断して北上する場合は大雨になることが多い。



用語説明

平均風速	普通、風速といえば、この10分間平均風速を指します。
風速	10分間平均風速の最大の値で、台風でよく使われる「中心付近の最大風速は・・・」がこれに当たります。
最大瞬間風速	風速は絶えず変化しています。ある瞬間の風速を瞬間風速といいます。その最大値を最大瞬間風速といい、通常、同じ時間の最大風速の約1.5～2倍と言われていますが、ときには3倍に及ぶこともあります。
強風域	台風や発達した低気圧の周辺で、平均風速で15m/s以上25m/s未満の風が吹いているか、地形の影響などが無い場合に、吹く可能性のある領域。
暴風域	台風や発達した低気圧の周辺で、平均風速が25m/s以上の風が吹いているか、地形の影響などが無い場合に、吹く可能性のある領域。